【ねがいましては】

平成１９年９月３日　　*KYOWA SCHOOL*
第２０２号

「配達人」

お疲れさま、J ちゃんが遠く離れた長野から戻ってきました。かなりのダメージを受けてのお帰りなさいです。ほんのちょっとした事で涙が絶え間なく流れ出します。苦しい心は癒されぬままに、それでも心は歩くことをやめようとしません。安らげる場所、ここにあり・・・。それから約半年・・・。

アルバイト先で言われた些細な一言が彼女の心を覆いつくします。生きている心地がしないのでしょう。今にも泣き出しそうな表情でやってきました。

私にちょっとした策が浮かびました。

「M ちゃん、C ちゃん・・・J ちゃんと３人で花壇造ってくれない！」

中学３年生、小学６年生のふたりに J ちゃんと３人で花屋さんへ行ってお花を買ってきて、かなり荒れてしまった春植えた小さな花壇を造りなおしてもらおうと思ったのです。

助け合うことは人の基本、助け合うことで思いやる心をいっぱいに膨らませて、一人ではないこともたっぷりと味わって、きっと J ちゃん元気になれたらいいな・・・。そんな気持ちで夏休みの栗田ランチのひと時を過ごしてもらいました。蚊に刺されながらも楽しそうに雑草取りをする３人。汗びっしょりになりながらも笑顔は絶えません。

花壇作成終了、３人の表情は私の心までも至福へと運んでくれました。元気になった J ちゃんが自宅へ戻るなりメールをくれました。

「お疲れ様です。今日は、本当にありがとうございました。お父さん（私のことのようです）が言ってた『心の洗濯』、キャンプ前にしちゃいました。今日来ていた子達みんなにも感謝です。みんなの笑顔を見ていたら、いつも考えていた自分の病気のことを忘れてしまいました。・・・・・キャンプは絶対に行きます。これからも、よろしくお願いします。」

J ちゃんの心の洗濯を手伝ってくれた M ちゃん、中学３年生。彼女は１年生の頃からの生徒さんで、いつも笑顔でマイペース、こつこつと歩き続けるタイプです。栗田ランチの時には必ず洗い物をしてくれます。C ちゃん、５年生のときに来てくれた限りない優しさの持ち主です。誰からも愛されるほんのりとしたものをいつも漂わせています。このふたりが２０歳を越えた J ちゃんの心をみごとに修復させてくれました。

２人ともその日はとても温かい気持ちを味わってくれたことでしょう。ひとを温かくすることが、自分が温かくされた以上にすてきに感じられたことでしょう。生きて行くってこういうことなんだ・・・。

社会には、人を人とも思わない数々の汚れたこころが飛び交っています。会社が生き残るためには仕方がないんだ・・・。と、日々忍耐の生活をされている人々で溢れています。学校も然りです。成績を上げるためには仕方がないんだ・・・。と、友達であっても時には裏切るような気持ちを味わいながらの勉強。これが現実なんだ、仕方がないんだ・・・。

このような気持ちで生活なさっている方がほとんどなのかもしれません。社会がそうなのだから、その社会の中で立派に生き抜いて行けるよう、学校時代から鍛えておく必要があるのだ・・・と。

私はそうは思いたくありません。子ども時代から温かいものを配りながら生きてゆく、となりの人にそっとこころを配りながら生きてゆく。となりの子に元気がなければ、そっとこころの手を差し延べながら生きてゆく。そのトレーニングをすべての子供たちが積んでゆく・・・やがていつでもどこでも、子どもたちはとなりの人に温かいプレゼントを配りながら生活するようになる。その土台が『家族』ではないかと思っています。もしすべての子供たちがそうであったなら、いじめなどあるはずがありません。

温かいこころを配る、子どもたちの笑顔は充分にその役目を果たすべき準備を終えています。そこにほんの小さな勇気を加えれば、もうその子は立派な配達屋さんです。

「おはようございます。」「こんにちは。」・・・子どもから先にいただくニコニコあいさつ。受け取った大人たちは、もうその日一日、絶好調なランランの一日になっているはずです。目を閉じるたびに浮かぶ笑顔・・・。

私の留守中に時々いらっしゃるお客様、先に教室へ来て机に向かっている子が、「粗茶ですが・・・。」と言ってお客様にお茶を出します。「もう涙が溢れるくらいに感動しました。」と言ってくれます。別に頼んだわけではないのですが、その子のこころが自然と動いたのですね。しっかりと配達をしてくれました。ありがとう。

人の評価ってどういった所に置くべきなのでしょう。数字で簡単に決めることのできるものは楽ですが、温かいこころを配って歩けることのできる子こそ真の評価を与えるべきでしょう。学校の中で、まず初めに行う勉強こそ配達屋さんの勉強なのではないかと思います。

M ちゃん、C ちゃん、そして J ちゃん、きっとしあわせさんになれますね。これからもたくさんたくさん温かいこころを配ってください。ありがとう。